

第2編

あきた農林水産ビジョンの
目指す姿

第2編 あきた農林水産ビジョンの目指す姿

第1章 目指す姿

1 ビジョンの目指す姿

農業については、本県の広大な農地において、多様な担い手が新たな技術の活用等により、高い生産性と環境負荷低減を両立した収益性の高い持続可能な農業を実現することで、我が国の食料安全保障に貢献する食料供給基地を目指します。

林業・木材産業については、脱炭素社会の実現に向け、「伐って、使って、植えて、育てる」森林資源の循環利用を促進し、その成長産業化と森林の有する多面的機能の維持・発揮を目指します。

水産業については、地球温暖化により海洋環境が変化する中、漁獲魚種の変化に対応した漁法への転換や操業の効率化、蓄養殖ビジネスの拡大を推進するとともに、新規就業者の育成を図りながら、水産業の持続的な発展を目指します。

また、農山漁村を支える人材・組織の育成や関係人口の拡大を推進するとともに、地域資源を活用したビジネスの創出や多面的機能の維持・発揮を図ることで、農山漁村の活性化を目指します。

2 2040年の理想像

○「稼げる農業の実現と県産農畜産物の輸出拡大」

スマート技術の普及により、農業の生産性が飛躍的に向上し、担い手が気候変動に適応した収益性の高い農業を展開するなど「稼げる農業」が実現するとともに、オール秋田での戦略的な取組により、高品質な県産農林水産物の輸出が大きく拡大しています。

○「脱炭素への貢献をチャンスに」

脱炭素化の潮流を追い風に、伐採後の再造林や森林由来のJ-クレジットなどの取組が社会から高く評価され、国内外において県産材の需要が拡大し、林業・木材産業が活性化しています。

○「新たな水産業が富をもたらす」

AIによる漁場予測や資源管理の最適化などにより、操業の効率化と持続可能性を両立した漁業が展開されるとともに、新たに漁獲される魚種や蓄養殖で生産された魚介類が豊かな富みを生み出し、水産業が活気に満ち溢れています。

○「活力ある農山漁村の実現」

関係人口など多様な人材の参画により農地・森林が適切に管理され、棚田では作物が豊かに実り、里山に光りが差し込むなど、美しい景観と多様な生態系がしっかりと守られ、農山漁村ならではの新ビジネスの定着により、移住・定住の流れが加速しています。

あきた農林水産ビジョンの目指す姿

第2章

あきた農林水産ビジョンの概要

施策1

日本の食を支える農業を実現する

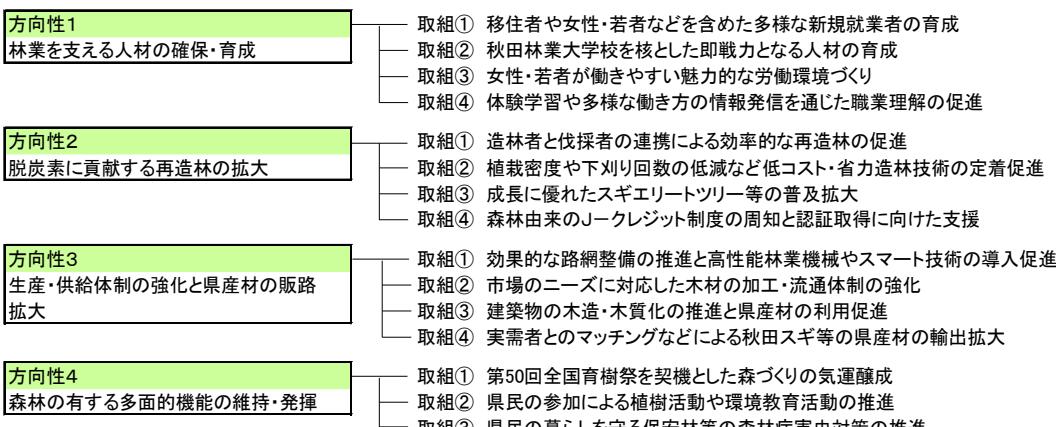
本県の広大な農地において、多様な担い手が新たな技術の活用等により、高い生産性と環境負荷低減を両立した収益性の高い持続可能な農業を実現することで、我が国の食料安全保障に貢献する食料供給基地を目指します。



施策2

森の恵みを未来へつなぐ林業・木材産業を実現する

脱炭素社会の実現に向け、「伐って、使って、植えて、育てる」森林資源の循環利用を促進し、林業・木材産業の成長産業化と森林の有する多面的機能の維持・発揮を目指します。



《代表指標》 農業産出額 現状(R5) 1,779億円 → 目標(R11) 2,525億円

業績指標					
方向性 1	・新規就農者数	現状(R6)	270人	→ 目標(R11)	330人
	・新規就農者の5年後の定着率	現状(R6)	65%	→ 目標(R11)	70%
	・担い手経営体数	現状(R6)	9,380経営体	→ 目標(R11)	7,710経営体
	・担い手への農地集積率	現状(R6)	72%	→ 目標(R11)	80%
	・販売額1億円を超える農業経営体数	現状(R6)	49経営体	→ 目標(R11)	100経営体
	・集落型農業法人の経営継承数	現状(R6)	3経営体	→ 目標(R11)	19経営体【累積】
	・農業支援サービス事業体数	現状(R6)	41事業体	→ 目標(R11)	54事業体
方向性 2	・農業保険制度面積カバー率(水稻)	現状(R6)	79%	→ 目標(R11)	84%
	・水稻の収穫量	現状(R6)	490,000 t	→ 目標(R11)	510,100 t
	・水稻の直播栽培面積	現状(R6)	1,103ha	→ 目標(R11)	1,500ha
	・サキホコレの生産量	現状(R6)	8,390 t	→ 目標(R11)	20,000 t
	・大豆の10当たり収穫量	現状(R6)	122kg/10a	→ 目標(R11)	165kg/10a
方向性 3	・そばの10a当たり収穫量	現状(R6)	43kg/10a	→ 目標(R11)	60kg/10a
	・企業と連携して生産拡大する園芸品目の作付面積	現状(R6)	55ha	→ 目標(R11)	124ha
	・主要園芸品目の販売額	現状(R6)	162億円	→ 目標(R11)	173億円
	・秋田牛の出荷頭数	現状(R6)	3,137頭	→ 目標(R11)	3,500頭
方向性 4	・肉用牛・酪農経営における飼料自給率	現状(R6)	47%	→ 目標(R11)	52%
	・農畜産物の輸出額	現状(R6)	876百万円	→ 目標(R11)	4,000百万円
	・県のマッチングにより商談成立した商品の販売額	現状(R6)	3,736百万円	→ 目標(R11)	5,080百万円
方向性 5	・6次産業化事業体販売額	現状(R6)	18,944百万円	→ 目標(R11)	23,000百万円
	・有機 JA S認証ほ場面積	現状(R5)	375ha	→ 目標(R11)	400ha
	・特別栽培米の作付面積	現状(R6)	3,269ha	→ 目標(R11)	7,200ha
	・環境負荷低減事業活動実施計画の認定数	現状(R6)	60経営体	→ 目標(R11)	2,050経営体
	・施設園芸における燃油削減技術の導入数	現状(R6)	82経営体	→ 目標(R11)	117経営体【累積】
方向性 6	・農業分野におけるJ-クレジットの販売金額	現状(R6)	93百万円	→ 目標(R11)	180百万円
	・スマート技術関連の試験研究成果数	現状(R6)	17件	→ 目標(R11)	34件【累積】
	・スマート技術を導入した農業法人の割合	現状(R6)	—	→ 目標(R11)	75%
	・温暖化対策技術関連の試験研究成果数	現状(R6)	9件	→ 目標(R11)	20件【累積】
	・水稻うらち玄米の1等米比率	現状(R6)	89%	→ 目標(R11)	90%
方向性 7	・ほ場整備面積	現状(R6)	93,577ha	→ 目標(R11)	96,010ha【累積】
	・年商20億円以上の食品事業者数	現状(R6)	14社	→ 目標(R11)	17社
	・加工食品・日本酒の輸出金額	現状(R6)	990百万円	→ 目標(R11)	1,520百万円
	・総食研の技術支援による新商品開発件数	現状(R6)	86件	→ 目標(R11)	87件

《代表指標》 林業産出額 現状(R5) 187億円 → 目標(R11) 240億円

業績指標					
方向性 1	・新規林業就業者数	現状(R6)	152人	→ 目標(R11)	160人
	・就業後3年未満の定着率	現状(R6)	65%	→ 目標(R11)	80%
	・Aターンによる移住就業者数	現状(R6)	17人	→ 目標(R11)	20人
	・林業従事者数	現状(R6)	1,417人	→ 目標(R11)	1,560人
	・秋田林業大学校の受講者数	現状(R6)	24人	→ 目標(R11)	30人
方向性 2	・再造林面積	現状(R6)	735ha	→ 目標(R11)	790ha
	・植栽密度	現状(R6)	2,300本/ha	→ 目標(R11)	2,200本/ha
	・スギエリートツリーの造林面積	現状(R6)	—	→ 目標(R11)	159ha
	・森林由来のJ-クレジットの販売金額	現状(R6)	886百万円	→ 目標(R11)	1,350百万円
方向性 3	・素材生産量	現状(R6)	1,465千m ³	→ 目標(R11)	1,700千m ³
	・県産材出荷量	現状(R6)	504千m ³	→ 目標(R11)	562千m ³
	・木材製品の輸出額	現状(R6)	95百万円	→ 目標(R11)	155百万円
方向性 4	・森づくり活動等への参加者数	現状(R6)	28,190人	→ 目標(R11)	35,000人
	・松くい虫被害量	現状(R6)	26,075m ³	→ 目標(R11)	7,000m ³

施策3**環境変化に対応した新たな水産業を実現する**

地球温暖化により海洋環境が変化する中、漁獲魚種の変化に対応した漁法への転換や操業の効率化、蓄養殖ビジネスの拡大を推進するとともに、新規就業者の育成を図りながら、水産業の持続的な発展を目指します。

方向性1 漁業を支える人材の確保・育成	取組① あきた漁業スクールを核とした新規就業者の育成 取組② ベテラン漁師が有する漁場情報や操業技術の継承の推進 取組③ 漁業体験やイベント等を通じた職業理解の促進
方向性2 つくり育てる漁業の推進	取組① 種苗放流等による市場評価の高い水産資源の維持・増大 取組② 漁港内の静穏域などを活用した蓄養殖ビジネスの拡大 取組③ 種苗放流や外来魚の駆除等による持続可能な内水面漁業の確立
方向性3 新たな漁業への挑戦	取組① 魚種の変化に対応した漁法の複合化や転換の促進 取組② 蓄養殖を含め水揚げが増加傾向にある魚種のブランド化と販路拡大の推進 取組③ 生成AI等のスマート技術の導入による操業等の効率化
方向性4 漁業生産の基盤となる漁場・漁港の整備	取組① 生産力の向上に向けた漁場整備やブルーカーボンの取組拡大 取組② 漁港施設等の機能強化と長寿命化の推進

施策4**活力あふれる明るい農山漁村を実現する**

農山漁村を支える人材・組織の育成や関係人口の拡大を推進するとともに、地域資源を活用したビジネスの創出や多面的機能の維持・発揮を図ることで、農山漁村の活性化を目指します。

方向性1 次世代につなぐ持続可能な農山漁村の形成	取組① 農山漁村の未来を拓く人材の育成と農村RMOの構築 取組② 農業体験や半農半Xの取組促進などによる交流人口・関係人口の創出
方向性2 農山漁村ならではの多様なビジネスの創出	取組① 中山間地域の特色を生かした園芸作物の生産振興 取組② 地域に潜在する食や文化などの資源を活用したオンラインビジネスの創出
方向性3 里地里山の保全と鳥獣被害防止対策の推進	取組① 農地保全活動の促進と活動組織等の体制強化 取組② 農地利用の促進による荒廃農地の抑制 取組③ 鳥獣被害対策実施隊の活動強化や農作物の被害防止対策の推進
方向性4 防災・減災対策と施設の長寿命化の推進	取組① 防災重点農業用ため池等の防災・減災対策と治水対策の推進 取組② 基幹的農業水利施設等の計画的な修繕・更新の実施

《代表指標》 漁業産出額 現状(R5) 30億円 → 目標(R11) 32億円

業績指標						
方向性 1	・あきた漁業スクールの研修受講者数 ・あきた漁業スクールの指導者数 ・新規漁業就業者数 ・水揚げ実績のある漁業者数	現状(R6) 現状(R6) 現状(R6) 現状(R6)	30人 36人 15人 810人	→ 目標(R11) → 目標(R11) → 目標(R11) → 目標(R11)	30人 66人 15人 687人	【累積】
方向性 2	・つくり育てる漁業の対象種の漁獲額 ・蓄養殖の生産額	現状(R6) 現状(R6)	231百万円 36百万円	→ 目標(R11) → 目標(R11)	267百万円 116百万円	
方向性 3	・漁法の複合化・転換に取り組む漁業者数 ・新たな魚種・漁法の対象魚種の平均単価 ・スマート機器を搭載した漁船数	現状(R6) 現状(R6) 現状(R6)	12人 2,160円/kg 16隻	→ 目標(R11) → 目標(R11) → 目標(R11)	35人 2,340円/kg 26隻	【累積】
方向性 4	・漁場整備数 ・防波堤の嵩上げ等の防災機能強化整備延長 ・漁港施設の修繕措置着手施設数	現状(R6) 現状(R6) 現状(R6)	25箇所 — —	→ 目標(R11) → 目標(R11) → 目標(R11)	48箇所 188m 11箇所	【累積】 【累積】 【累積】

《代表指標》 耕地面積 現状(R6) 145,600ha → 目標(R11) 144,500ha

業績指標						
方向性 1	・農山漁村活性化人材育成数 ・農村RMの設立数 ・農村関係人口による地域貢献活動数	現状(R6) 現状(R6) 現状(R6)	25人 3組織 5件	→ 目標(R11) → 目標(R11) → 目標(R11)	15人 15組織 12件	【累積】
方向性 2	・中山間地域において生産振興する園芸品目の作付面積 ・売上額250万円以上の新たな農村ビジネス数 ・農家民宿の宿泊者数	現状(R6) 現状(R6) 現状(R6)	82ha — 26,501人	→ 目標(R11) → 目標(R11) → 目標(R11)	99ha 5件 36,500人	
方向性 3	・農地保全活動面積 ・遊休農地の発生防止・解消を図った農地面積	現状(R6) 現状(R6)	102,284ha 39ha	→ 目標(R11) → 目標(R11)	100,600ha 40ha	
方向性 4	・防災対策工事に着手した防災重点農業用ため池数 ・治山対策に着手した山地災害危険地区数 ・長寿命化対策に着手した基幹的農業水利施設数	現状(R6) 現状(R6) 現状(R6)	44箇所 2,175地区 209箇所	→ 目標(R11) → 目標(R11) → 目標(R11)	83箇所 2,267地区 228箇所	【累積】 【累積】 【累積】

S D G s との関係

- S D G s は、持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals) の略称であり、2015年9月の国連サミットにおいて採択されました。
- 2030年までに達成すべき国際社会全体の開発目標として、貧困の解消やジェンダー平等の実現など、17のゴールと169のターゲットで構成されており、「誰一人取り残さない」ことを理念に、持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現を目指すものです。

本ビジョンの4つの施策ごとの主な取組と S D G s の各目標との関係は次のとおりです。

【施策1】 日本の食を支える農業を実現する



【施策2】 森の恵みを未来へつなぐ林業・木材産業を実現する



【施策3】 環境変化に対応した新たな水産業を実現する



【施策4】 活力あふれる明るい農山漁村を実現する

